



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言 鹿児島県言語聴覚士協会 副会長 黒木 康

今号目次

巻頭言	1ページ
言語聴覚の日 イベント報告	2-3ページ
新人紹介	4-5ページ
事務局通信	6-7ページ
地域局 社会局(公共 事業・保険)	8ページ
学術局(成人) 学術局(新人)	9ページ
学術局 (小児)	10ページ
学術局 (生涯学習)	11ページ
財務局 社会局(広報) 編集男誌	12ページ

もっと外に目を向けて

災害的な暑さと表現された夏から涼しい秋を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年は災害の多い夏でもありました。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

本年度第8回定期総会にて、県士会副会長に就任しました。まだまだその任を受ける実力が無いと考えましたが、原口友子会長、田場要副会長より鹿児島県言語聴覚士会を盛り上げていこうと声を掛けていただき、就任しました。どうかよろしくお願い致します。

さて、「もっと外に向けて所属施設以外の言語聴覚士、他職種と言語聴覚療法について話をして欲しい」。これが、今回私が伝えたいことです。

県士会には、会員への対応の他に、外部からの問い合わせも多いです。特に、ここ数年、行政からの対応について議論することが増えています。ただ、この内容は会員の皆さんには十分伝えきれていない部分かもしれません。

例えば、今年度より、鹿児島市介護予防地域ケア会議が、市内を3ブロックに分けて8月より開催され、県士会から推薦された言語聴覚士が出席しています。ケア会議にはいろいろな職種の方、行政の方が出席し、医学モデルではなく、生活モデルでそれぞれの専門的立場より意見を述べていることと思います。まだ明らかに障害が起きているわけではない方たちですので、推測しながら専門的な意見を述べることは苦勞も多いのではないかと推察します。このような場にふさわしい人材を提供するために鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会が主催する地域リハビリテーション活動支援推進の人材育成事業が行われており、8月26日に初期研修が開催され21名が参加しています。

これまでのニュースレターでも話されていますが、失語症者向け意思疎通支援事業のもとになっている障害者総合支援法、行政機関や事業者を対象にした障害者差別解消法の施行は、言語に障害のある方への配慮も求められており、言語障害の方々と関わっている言語聴覚士にも、市民への理解を促す役割を求められているのではないかと思います。

このような社会状況の変化を好機として、言語聴覚士が活躍するフィールドの拡張ため頑張りましょう。外部への発信のために、地域の言語聴覚士のつながりを築き、われわれ言語聴覚士の能力、知識技能を再認識し、自分たちができることをアピールする必要があります。われわれが当たり前と思っていることも、他からは専門的だと感じられることはあるでしょう。まずは、地区の勉強会に参加していただき、互いの連携をとることから始めましょう。

9月1日は「言語聴覚の日」

「言語聴覚の日」
の取り組み



「言語聴覚の日」 イベント報告！！

一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会では、9月15日に鹿児島市内のイオンモール鹿児島様の一角をお借りして、「ことばの相談会」を開催致しました。鹿児島市内においても最大級規模の店舗であり、また、今年も土曜日の開催という事もありファミリー層が大変多く来場されておりました。

「ことばの相談」としては、ことばの発達に関する小児言語の内容を多く頂き、県内の小児施設で勤務する言語聴覚士が直接話を伺わせて頂きました。その他、「言語聴覚士になる為にはどうしたら良いか」、といった相談も数件受けさせて頂きました。まだまだ言語聴覚士の数は充足しているとはいえない状況です。言語聴覚士を志す方が増えてきてくれると嬉しいですね。

そして、言語聴覚士の仕事を知って頂くために、今年も鹿児島県言語聴覚士会の可愛いロゴマークをプリントした風船を準備し、相談会場の前を通る子どもたちへ風船のプレゼントもあわせて行いました。この日の会場は鹿児島県言語聴覚士会の風船一色となり、風船を手に持つ子ども達の晴れやかな表情が印象的でした。



さて、ことばの相談会も今年度で6回目となりました。風船を配布した際には、「昨年もされていましたね」といった声も頂き、少しずつではありますが、言語聴覚士の名前や、仕事内容が浸透しているように感じられました。今後も、「言語聴覚の日」のイベントはもちろん、言語聴覚士の専門性が活かせるようなイベントに積極的に参加して行きたいと考えております。皆さまに専門性を認識して頂き、地域の皆様に貢献できる言語聴覚士になれるよう努めていきたいと感じました。

また、8月29日～9月28日の期間、鹿児島市内を走る路面電車の側面に「9月1日は言語聴覚の日」をプリントした車両を走らせて頂きました。なんと、車両側面の広告プリントにとどまらず、車両内の窓吊りポスターにも広告掲示も行いました。路面電車を利用された、多くの市民・県民の方々に対して「9月1日は言語聴覚の日」であることをアピールできたのではないかと考えております。

最後に、今回のことばの相談会にご協力いただいた会員の皆様、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

社会局広報 小牧 祥太郎



新人紹介①

菊野病院 志水 千花

私は平成30年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在、医療法人菊野会菊野病院で言語聴覚士として勤務しています。菊野病院では、整形外科、神経内科、消化器内科、麻酔科、リハビリテーション科、循環器内科、呼吸内科、糖尿病外来、リウマチ外来の診療科があります。また、関連施設として通所リハビリテーションや介護老人保健施設、児童発達支援事業所、訪問看護があります。その中でも私は、パーキンソン病等の神経変性疾患の患者様や、発達障害等の小児の患者様におけるリハビリテーションに携わらせてもらっています。

入職当初は、臨床現場の中で自分の未熟さを感じる事が多くありました。また、実習とは違い一人の患者様にかけられる時間の少なさから、訓練プログラムや日々の疑問を全て解決できないままにリハビリを行っている自分に悩む事がありました。

しかし、先輩方からの指導やアドバイスにより、多くのことを学ばせていただく中で、充実した毎日を過ごせています。また、STの先輩方だけでなく多職種の先輩方と関わる機会が増え、自分の考えもより深くなったと感じております。また、実際にリハビリに携わる中で、患者様やそのご家族から「ありがとう」の言葉を頂いた時は、とても嬉しく、STを目指してよかったという思いと、やりがいを感じる事ができました。

現在、入職してから約半年が経とうとしています。臨床現場に立たせてもらう中で、患者様のリハビリに関わらせてもらう自覚と責任を強く感じています。今後は、様々な視点で物事をとらえ、患者様の気持ちを考えることのできるSTを目標に日々の業務に励みたいと思います。

新人紹介②

アクラス中央病院 柳 孝志朗

私は平成30年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在医療法人博康会アクラス中央病院でリハビリテーション部所属、言語聴覚士として勤務しております。アクラス中央病院は一般病棟(障害者施設等一般)、回復期病棟、認知症治療病棟、外来、通所、デイサービスにて分かれており我々言語聴覚士は、主に一般病棟、回復期病棟の患者様のリハビリテーションに携わっております。時には、摂食・嚥下障害に関する相談に対して依頼が来た場合は認知症治療病棟、外来、通所、デイサービスにも指導を行っています。また、当院では水曜日に嚥下造影検査を実施しており、嚥下障害に対する評価、今後の指導・訓練にアプローチしていくことができます。主な対象疾患と致しましては、脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など)、肺炎後廃用症候群となっております。

入職当初は臨床の現場で日々学ぶことが多く、今までの学校で学んできたこと実習で得た知識と技術だけでは到底通用しないことを実感し悩むことが多々ありました。しかし、先輩方が朝から勤務後まで指導やアドバイスをしてくださり、自分の中に言語聴覚士というプロの自覚と知識、技術を少しずつではありますが習得できてきたと思えるようになりました。患者様に対する接し方など、他職種に関わる情報なども、理学療法士・作業療法士・看護師・栄養士と多くの先輩方から教わることもでき、チーム医療の充実した職務に努めることができたこと改めて実感することもできました。

私は、まだ言語聴覚士になる為に勉強をしていた学生の時に、交通事故に遭い膝と肘を大きく負傷してしまいました。そのまま救急搬送された病院で日々、苦しい思いでリハビリを行っていたことを今でも覚えております。その時に、優しくして下さったリハビリの先生方や医師、看護師の皆様の患者様に対する接し方を身をもって感じる事ができました。私には他の人が経験することの少ない患者様の目線を経験しているため、より一層患者様に寄り添って、心身共にアプローチできる言語聴覚士になりたいと思っております。

言語聴覚士として働きだしてまだ日も浅く、これからも学ぶべきことは多い為、少しずつ先輩方の技術を吸収し自分なりの言語聴覚士になることを目標に、今後も勉学・業務を含め、患者様に対する接し方やそのご家族への支援を十分行えるように、努めてまいります。皆様方のご要望に添えますよう、今後も努力してまいりますので何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

事務局

【理事会報告】

6月理事会

- ・県PTOTST連絡協議会より会負担金納入
- ・一社)日本福祉用具供給協会鹿児島ブロックより「福祉用具の日2018/福祉機器展&セミナー in かがしま」後援依頼あり→承諾
- ・鹿児島市医報への寄稿依頼あり→鹿児島地区会員へ依頼
- ・全国協会より「まんがでわかるメディカルスタッフの仕事第7弾言語聴覚士」冊子(50冊)の送付あり→事務局・社会局広報・地域局で保管
- ・第19回健康咀嚼指導士認定研修会のご案内および周知依頼あり
- ・鹿児島医療技術専門学校より学校関係者評価委員会委員および教育課程編成委員会の推薦依頼あり→西野氏へ依頼
- ・県社会福祉協議会より平成30年「ふれあい・いきいきサロン」介護教室派遣事業実施に伴う講師派遣依頼あり
- ・第7回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会沖縄大会代表者会議議事録送付あり
- ・第2回九州老年歯科フォーラム in 鹿児島 市民公開講座への後援依頼あり→承諾
- ・鹿児島県法務局より事務局移転における書類一式受付完了の報告あり
- ・県社会福祉協議会より平成30年度介護の仕事チャレンジ事業による「介護施設等職場見学バスツアー」(伊佐コース並びに大隅コース)の参加募集について周知依頼、チラシ兼申込書送付あり
- ・自民党鹿児島県支部へ第25回参議院議員選挙の候補者推薦状を提出
- ・日本言語聴覚士協会より「失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修」の受講者選出(2名)について(染川氏・竹中氏)

7月理事会

- ・鹿児島県くらし保健福祉部より「認知症を理解し一緒に歩む県民週刊」シンポジウムの後援依頼あり→承諾
- ・公社)鹿児島県歯科医師会より平成31年2月12日(日)午前に実施される「第8回口腔機能管理推進協議会(勇美財団研修会)」参加依頼あり
- ・鹿児島大学病院および鹿児島大学大学院より資金提供状況の公表に関わる同意書の送付あり→同意書提出

8月理事会

- ・全国協会より第11回JMTEF災害医療研修ベーシックコース(9/22, 23 東京)受講者募集案内あり→災害対策部にて検討

- ・平成30年度失語症者向け意思疎通支援者指導者研修事業業務委託に関わる誓約書提出
- ・かごしま難病支援ネットワーク公開シンポジウム参加申し込み(原口氏・中野氏)
- ・第50回(H31年度)日本看護学会—慢性期看護—学術集会のご出席について(原口氏)
- ・福祉用具の日2018/福祉機器展&セミナーinかごしま関係者交流会のご案内(原口氏)
- ・日本言語聴覚士協会より会員および会費関連のアンケート調査依頼あり→提出
- ・国立障害者リハビリテーションセンター学院平成30年度言語聴覚士研修会案内→社会局広報へ
- ・介護ふれあいフェスタ2018(2018.11.4 かごしま県民交流センター)共催依頼→承認・承諾書送付
- ・鹿児島県障害児等療育支援事業巡回相談の講師派遣依頼→(松永氏:菊野病院)
- ・鹿児島市保健所(鹿児島市口腔保健センター)より鹿児島市口腔保健連絡協議会委員の推薦依頼→(熊倉氏:米盛病院)

9月理事会

- ・九州理学療法士学術大会2019 in 鹿児島より後援名義使用依頼あり→承認
- ・鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課地域生活支援係へ平成30年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修事業に関わる免税事業者届出書送付
- ・第8回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会佐賀大会より書類送付あり(案内・チラシ・代表者会議案内・シンポジスト依頼・一般演題募集・座長推薦)→社会局広報
- ・障害児等療育支援事業所(生活支援センターなんさつ)より鹿児島県障害児等療育支援事業専門スタッフ契約における説明あり
- ・鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課地域生活支援係より平成30年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修事業委託における仕様書送付あり

【会員数】

会員数合計502名(正会員500名, 賛助会員2名)

※9月理事会承認まで

地域局(大隅地区担当)

最近は、朝晩と涼しくなり、秋らしい過ごしやすい季節になってきました。4月にそれぞれの職場に入職された新人のSTの皆さんも約半年が経ち、職場や業務に慣れてきたことと思います。それぞれの地区の症例検討会や勉強会に1年目のSTの皆さんが参加されている姿を見ると、とても嬉しく思います。

さて、地域局は、鹿児島地区、始良・霧島地区、北薩地区、南薩地区、大隅地区の5つの地区に理事を設けております。地域局の主な仕事は、会員の皆様への連絡や、生涯学習プログラム症例検討会、地区ごとの勉強会計画等の計画・運営です。

大隅地区では、前年度から大隅地区内の会員が在籍する施設で嚥下食の名称を統一する取り組みを行っています。まずは、日本摂食嚥下リハビリテーション学会調整食分類2013を元に基準を作成し、各病院は現在使用している食形態の名称をそのまま用いつつ、転院するときは統一した名称を用いることで、病院あるいは施設間での食形態のズレを解消していけるのではないかと考えています。

今後も、県士会員皆様のご意見やご要望を県士会活動に反映できる様に努めて参りたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。(地域局理事一同)

恒心会おぐら病院 中野江美

TEL:0994-44-7171 FAX:0994-40-2300

社会局(公共事業|保険担当)

平成30年度は、公共事業として鹿児島県介護実習・普及センターよりご依頼いただきました介護講座講師9件、地域サロン講師5件を中心に各地での講習会等への講師派遣を行っております。様々な地域での講師依頼も増加傾向にありますので、多くの言語聴覚士の方々のご理解とご協力を今後とも宜しくお願い致します。

診療報酬に関するお問い合わせは、現在までに2件です。内容としましては、レセプト審査結果に関する事項と疾患に対する算定方法の確認となっております。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容のお問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会にお問い合わせいただくこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会にお問い合わせいただきたいと思いますと考えております。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム：<http://www.jaslht.or.jp/form.html>

垂水市立医療センター垂水中央病院 リハビリテーション室 竹中恵太

Tel 0994-32-5211 Fax 0994-32-5722

学術局(成人)

いつも県士会活動へのご参加、ご協力、誠にありがとうございます。

成人学術局ではH30.5.20に北海道大学大学院保健科学研究所の大槻美佳先生をお招きして「失語症の症候学」の講習会を行いました。皆様のご協力もあり講習会の運営もスムーズに行え、参加者の皆様からはご好評を頂くことが出来ました。先生からも「皆さん講義を熱心に聞いていただき、たくさんの質問が飛び交い充実した講習会を行うことが出来ました。」とお言葉を頂いております。

またH30.8.26には「日本語聴覚士協会・地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修」を行いました。今後のSTに求められる地域リハ活動支援事業に対して重要な研修となっている為、今後も定期的開催を行っていく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

今後ともよろしくお願い致します。

サザン・リージョン病院 リハビリテーション部 坂口彩
TEL:0993-72-1351 FAX:0993-72-2128

学術局(新人教育)

少しずつ朝夕は空気の冷たさを感じることも増え、季節の変わり目を実感する今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

平成30年度の新人教育研修会は、1回目として9月に「VE・VFの基本的な診かた」と題して米盛病院リハビリテーション科医師の三石敬之先生にご講演いただきました。

日頃の臨床においても興味のある内容だった為か、60名を超えるご参加を頂きました。

講演では実際のVEやVFの動画も多数使用していただき、重要なポイントは反復して動画再生していただき、参加者の皆様にはとても印象に残ったのではないのでしょうか？現場で実施しているVEやVFで評価する手がかりも多く、すぐにでも臨床で活用することのできる内容でした。

次回は今年度第2回目として1月の新人教育研修会を企画中です。

詳細は決定次第お知らせいたします。会員の皆様の興味のある内容はもちろん、STとして必要な知識、トピックを意識しながらこれからも参加したくなる研修の企画していきますので、お楽しみに！！！！

また、こんな研修を企画して欲しい等のご意見ございましたら、ぜひぜひお知らせください。よろしく願いいたします。

米盛病院 石原 禎人
Tel 0992-30-0100 Fax 0992-30-0101

学術局(小児)

去る平成30年7月29日に、JDD(日本発達障害)ネットワークinかごしま2018を鹿児島国際大学にて開催いたしました。参加者は300名程でした。基調講演は「気になる子への教育的配慮」というテーマで大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生にご講演いただきました。発達障害に関する対応や教育現場での専門職の活用など、先生が経験した実際の事例も含めて非常にわかりやすく時間が足りない程でした。発達障害をとりまく社会に対して、私たちが取り組むべきことの道標を与えてもらったと思います。

シンポジウムは「知って得する多職種活用」というテーマで座長、コメンテーター、保護者会からの代表と県作業療法協会、県S.N.S.E(特別支援教育士)の会、県言語聴覚士会からの代表7名で事例に対する具体的な手立てや専門分野、保護者の思いを参加者と共有する機会となりました。多職種の取り組みや考え方を一つにして子どもを捉えるスキルが今後求められることを痛感した次第です。

今後もJDDnetかごしまは発達障害に対する啓発と、子どもと家族・各専門職の懸け橋として活動していきます。言語聴覚士の専門性の向上や啓発もそうですが、まずは我々を周囲に知ってもらうことも意識していきたいと思います。

<2019年度学術講習会>

2019年度学術講習会の講師を現在検討しています。小児領域から「半端ない！」講師を鹿児島に招待し、STとしての心構えや知識・スキルの向上に繋がりたいと考えています。また、子どもに関わるSTが一人でも多くなれば嬉しい限りです。

皆さま、学術講習会を期待してください！

やまびこ医療福祉センター リハビリテーション部

西野 将太

Tel 099-238-2755 Fax 099-238-5134



学術局(生涯学習)

平成29年9月2日に基礎講座を開催しました。37名の会員が参加し、言語聴覚士の業務の流れやチーム医療の重要性、診療報酬・介護報酬についてなど、患者や利用者が受けられるサービスを学んだと思います。休憩時間では旧友や恩師との再会で会話も弾み、各施設間との情報共有の場にもなりました。基礎講座では日本言語聴覚士協会に入会していない方がおり、受講出来ない方もいました。入会されていない方はお早めに手続きをお願いします。

11月には早稲田大学教育・総合科学学術院教育心理学教室 坂爪 一幸 先生をお招きし、「高次脳機能障害、発達障害、認知症にみる障害の神経心理的な理解と支援」をテーマに専門講座を開催します。申込期日は10月6日・11月3日迄となっております。詳細は各地域局からの配信メール又は県士会ホームページの学会・研修会日程をご確認して頂き、お申し込みをお願いします。より多くの参加を心よりお待ちしております。

学術局として5月に奄美大島で日本言語聴覚士協会・地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研修を開催しました。研修前日の懇親会では奄美群島の会員さんとの交流は初めてでしたが、鹿児島県言語聴覚士会の動向や島内の現状などお互いの情報共有と、美味しい料理と黒糖焼酎を頂き、実りのある「よか晩」となりました。10月28日(日)名瀬徳洲会病院で基礎研修を開催します。県士会ホームページの活動報告で研修会の様子を更新したいと思います。



公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
医療技術部 リハビリテーション科
樋渡 健太郎
TEL:099-226-9111
FAX:099-805-2509
MAIL:momotarothsamurai@gmail.com

財務局

会員各位。平素より大変お世話になっております。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。今年度の会費を納めておられない会員の方は納入をよろしく願いいたします。また、まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただけますようによろしく願いいたします。

いづろ今村病院 リハビリ室 下舞美和

TEL(099)226-2600 FAX(099)225-5181 kago_st@yahoo.co.jp

ご不明な点は上記まで連絡いただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

いづろ今村病院 リハビリ室 下舞美和

社会局(広報担当)

社会局広報担当の小牧です。いつも各種イベントへのご協力、誠にありがとうございます。

平成30年度も、「言語聴覚の日イベント」を開催させていただきました。ご協力いただきました、会員の皆様、誠にありがとうございました。今後も社会局広報では様々な企画を考えてまいります。会員の皆様のご協力をお願い致します。

鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科 小牧 祥太郎

編集男紙

朝晩が冷え込みやすくなってきましたが、皆さんいかがお過ごしですか？

空気も乾燥し、毎年この季節に喉風邪をこじらせている編集者です。季節の変わり目はご注意ください！！

さて、この時期はST養成校の学生は臨床実習が終了し、国家試験に向けて勉学に励んでいることでしょう。

先日、就職活動解禁時期に関するニュースなんてのが話題になりましたね。STになるため、国家試験の勉強もさることながら、自分がやりたい専門も持ちつつ勉強し、自分の意志で就職先を希望する時代になってきている気がします。積極的な新人が入ってくることで活性化する部分も多くあると思います。切磋琢磨しながら良い職場環境を作っていきたいものです。私も新しいことにチャレンジしようかな！！？

大島

